

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「食べ物へんしんブック」を作ろう

教材名 「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

2 単元の目標

- 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。 (知識及び技能 (2) イ)
- ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。 (思考力、判断力、表現力等 B (1) イ)
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。 (思考力、判断力、表現力等 C (1) ウ)
- 目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見付けたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。(2) イ	・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 B (1) イ ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。 C (1) ウ	・目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見付けたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。

4 単元について

(1) 主となる言語活動と扱う教材

本単元では、筆者の説明の工夫を見付け、食材について説明する文章を書くという言語活動を行う。本活動を通して、小学校学習指導要領解説国語編第3学年の指導事項、「[思考力、判断力、表現力等] B 書くこと」の「(1) イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること」主なねらいであり、読むことと書くことの複合単元である。

本教材「すがたをかえる大豆」の本文は、「初め」「中」「終わり」に分けられ、「中」には事例が列挙されている。このような文章の構成のうえ、事例や説明が順序立てて整理されていること、写真資料が効果的に使われていること、事例の順序について、「次に」「さらに」といったつなぎ言葉が用いられていることなど、読み手にわかりやすい説明文にするための工夫がいくつも取り入れられている。説明文を書く際に意識すべきことや文章構成を学ぶには適した教材である。「すがたをかえる大豆」

で見付けた筆者の説明のしかたの工夫をいかして、「食べ物ひみつを教えます」では、読み手にとってわかりやすい文章を書くことにつなげていく。書く活動の中では、本を使って調べたり、集めた情報を整理したりするなど、読書や情報整理に関わる内容も行う。

また、食べ物という児童にとって身近な話題であるが、加工された食品の原料は意外と知らない物が多い。そのため、知ることの喜びを味わうことができるとともに、料理に関する語彙の拡充や食育の観点からも意義をもつ題材といえる。11月にはゆめ牧場への校外学習を控えており、バター作り体験を行う。そのため、食べ物の変化の様子を、体験を通して身近に感じることができ、本単元を終えても学習が生きてくるといえる。

（２）学習を通して身に付けさせたい力とその手立て

【身に付けさせたい力について】

本単元では、筆者の説明の工夫を見付け、変身する食べ物について説明する文章を書く言語活動を行う。「食べ物へんしんブック」をつくって食べ物を紹介するという目的のもとで、紹介する相手にわかりやすい文章を書く力を培っていききたい。わかりやすい文章を書くために、「すがたをかえる大豆」で、筆者がどのような説明の工夫をしているのかを読み取り、児童が文章を書く際に自分で使えるようにしていきたい。具体的には、書く内容の中心を明確にし、段落相互の関係に注意して文章の構成を考えたり、例を挙げたりする力を養っていききたい。

本単元の言語活動では、読む活動と書く活動を一つの単元に組み込むことで、「食べ物へんしんブック」を作るために、筆者のわかりやすい構成や書き方を、必要感をもって身に付けられるようにする。

【手立てについて】

①相手意識をもたせ、学習の必要感を生む

本単元では、「すがたをかえる大豆」の学習をした後、自分で食べ物ひみつを説明する文章を書く。それを「食べ物へんしんブック」と題し、食べ物を変身させるひみつを、なぞなぞを交えながら家族に紹介できるようにする。相手意識をもたせることで、よりわかりやすく書きたいと思えるのではないだろうか考えた。そして、書いた文章をそのまま見せるのではなく、楽しく、コミュニケーションをとりながら紹介してほしいため、「食べ物へんしんブック」の冊子には、なぞなぞを書き入れる。そうすることで、食べている身の回りの食品や、買い物で見かける食品について関心をもち、家族と話す機会が増えるだろう。さらに、普段の学校での学習の内容が家庭には伝わりにくいと考えるため、家族を相手に設定することで、児童の学習について知る機会を確保する。

②学習の履歴が残る「アイテムブック」の作成と活用

本単元では、「食べ物へんしんブック」をつくる。そこで、わかりやすい文章を書くためには、「すがたをかえる大豆」を読むことを通して筆者の説明の工夫を見付けなければいけない。そこで、毎時間の学習で学んだことや、筆者の説明のしかたの工夫を書き溜めておく場所として、アイテムブックを作成したい。アイテムブックに毎時間書き溜めておくことで、「食べ物へんしんブック」を書くときや、何を意識すればよいかわからなくなってしまったときなど、自分が困ったときに見返して頼れるというよさがあると考えられる。さらに学習の履歴も残せるようにする。単元のはじめに、学習のゴールと学習計画を書くとともに、この学習を通して付けたい力を一人一人が書けるようにする。また、

毎時間の振り返りや単元の振り返りを書き溜められるようにし、児童が自分の身に付いた力を実感できるようにしたい。

③協働的な学び合いの場

第三次の「書くこと」では、「食べ物へんしんブック」をつくるために、同じ材料を選んだ児童同士でグループになり、共に学習していく場を設定する。本を使って行う調べ学習から、組立てメモ作成、下書きの推敲など、同じグループで学習していくことで、自分の活動が終わっても、グループの友達に助言するなど、手助けしてあげられるようにする。同じ材料を選んでいるからこそ、助言することも的確になり、協力できるのではないかと考える。

④可視化できる資料の工夫と活用

第三次「書くこと」では、「食べ物へんしんブック」の本文を完成させるために、段階を踏んで文章を書いていく。「中」で例をあげながら、何段落にもなる文章を書くことは経験がないため、どのような組立てで例を書いていくのか、児童にとってわかりやすいものにしたい。

まず、自分の選んだ食品についての「おいしく食べるための工夫」と変化した食品名を情報メモに書いていく。次に、組立てメモへ整理する。組み立てメモは、短冊カードに区切り、段落ごとにまとめた内容を書くということが目で見てわかりやすいようにする。そうすることで、組立てメモから文章の構成を考えると、順序を並び替えたり、適切なつなぎ言葉を考えたりしやすいようにする。

また、学習計画や児童が見付けた筆者の説明の工夫、つなぎ言葉などを掲示物として常時見ることができるように掲示しておく。さらに、文章の組立てや例の書き方について教師の自作資料「すがたをかえる大豆」、を活用して、「食べ物へんしんブック」のイメージをもたせられるようにする。

5 指導計画（14 時間扱い）

次	時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
一	1	○食べ物へんしんクイズをする。 ○給食の献立表を見て大豆が使われている献立を探す。 ○単元全体の学習課題を確認し、見通しをもつ。 ○第二次「読むこと」についての学習計画を立て、個人のめあてをもつ。	・大豆以外の身近な食べ物についてのクイズを出すことで、このクイズが第3次につくる「食べ物へんしんブック」につながるようにする。 ・給食の献立表から、普段大豆をどれだけ摂っているか気付かせたり、大豆の実物や、写真などを提示したりすることで、単元の活動に関心をもてるようにする。 ・「食べ物へんしんブック」をわかりやすく書くためには、「すがたをかえる大豆」を読んで、筆者の説明の技を見付ける必要があるということに気付かせる。 ・複合単元のため、まず第二次「読むこと」での学習計画を全体で立て、どのような力を付けたいか、アイテムブックに書くことで、一人一人の学習のゴールをはっきりさせ、つけたい力を意識させる。 ◇文章のおおまかな内容を捉えるとともに、単元全体の目標を理解し、学習の見通しをもとうとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）
	2	○文章を3つに分け、「中」で書かれている例を整理する。	・「中」の形式段落ごとに「大豆をおいしく食べるくふう」と「食品名」に注目して例を表に整理し、段落ごとに書かれている事柄の中心に気付かせることで、段落の組み立てを理解できるようにする。 ◇目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。 （思・判・表） ◇目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見付け、学習の見通しをもって、筆者の説明の仕方の工夫を見付けようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）
二	3	○どこに、どのような「問い」の文を入れるかを考える。 ○「中」がどのように書かれているのか考える。	・「問い」を考えさせることで、その答えとなる段落の中心の文をおさえられるようにする。 ・「くふう」という言葉が含まれる文章にサイドラインを引かせることで、中心となる文が各段落の最初に書かれていることに気付かせる。 ◇目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。 （思・判・表） ◇目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見付け、学習の見通しをもって、筆者の説明のしかたの工夫を見付けようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）

	4 ○「中」の例が、どのような順であげられているか考える。	・「中」の段落を意図的に入れ替えて提示することで、段落の順序はどの順番でもよいのではなく、意図があるということに気付かせる。 ・段落ごとに切り取ったカードのつなぎ言葉は隠して提示することで、順序と接続語の関係や、接続語の役割を意識できるようにする。 ・第三次で、「食べ物へんしんブック」を書く際に「中」で例をどの順序であげるのか、根拠をもって考えさせるために、意図的な順（ならびかえのカギ）で段落が構成されていることをおさえる。 【ならびかえのカギ】（例） ・作り方の多さ（手間） ・かかる時間 ・簡単→難しい ・姿がどれだけ変わるか ◇目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。 (思・判・表) ◇目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見付け、学習の見通しをもって、筆者の説明のしかたの工夫を見付けようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
	5 ○筆者の説明のしかたには、どのような工夫があったのかまとめる。 ○第二次「読むこと」についての振り返りをする。	・これまでの学習を振り返り、読む人がわかりやすい説明の工夫について教科書の観点に沿いながら話し合い工夫をまとめることで、第三次につなげ、「食べ物へんしんブック」に活用できるようにする。 ・第二次で筆者から学んだ説明の仕方の技や、振り返りをアイテムブックに書くことで、第三次では文章の書き手になるという意識をもたせる。 ◇目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。 (思・判・表) ◇目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見付け、学習の見通しをもって、筆者の説明のしかたの工夫を見付けようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
三	6 ○第三次「書くこと」についての学習計画を立て、個人のめあてをもつ。	・第三次「書くこと」の学習でどのような力を付けたいか、個人のめあてをもち、アイテムブックに書くことで、一人一人の学習のゴールをはっきりさせ、付けたい

	○本を読み、自分が「食べ物へんしんブック」で取り上げる材料を決める。	力を意識させる。 ・食べ物に関する本を多数用意し、調べやすい環境にすることで、この後自分がどのような食品を書きたいのか考えやすくする。 ◇比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使っている。 (知・技)
7	○本で調べた内容を情報メモに書き、組立てメモに整理する。	・「食べ物へんしんブック」を書くために必要な情報を確認し、調べる情報を絞ることで、目的に沿って調べ学習をできるようにする。 ・組立てメモへの情報を整理しやすくするために、「変身した食品名」と、「おいしく食べるためのくふう」を本で調べ、情報メモとして整理する。 ・情報メモに書くときは、文章でそのまま書くのではなく、一言で書くことを意識させるために、情報メモの書き方の例を教師が提示する。 ・情報メモの中から、自分が書きたい食品を3～5つ選ぶ。意欲をもたせるために、児童が書きたいと思う気持ちを尊重して選ばせる。 ◇比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使っている。 (知・技)

8	○組立てメモに作り方を書く。 ○「ならびかえのカギ」について、他の観点を話し合う。 ○本の、具体的な作り方の文章を読み、「ならびかえのカギ」に合ったキーワードを組立てメモに書き込む。	・組立てメモに、「作り方」を箇条書きで書く。ここでは、本の中で作り方の工程が一番わかりやすい箇所の箇条書きすることで、作り方の工程を整理できるようにする。 ・「すがたをかえる大豆」での、筆者の並び替えの観点以外にも、観点を増やせるかどうか学級で話し合い、「ならびかえのカギ」の項目を増やすことで、多くの観点から選べるようにする。 ・作り方をより理解できるようにするために、本の具体的な文章を読む。「ならびかえのカギ」を選び、それに合ったキーワードを本から見付ける。キーワードを本から抜き出し、組立てメモに書き込ませることで、次回、並び替えの根拠を説明できるようにする。 【ならびかえのカギ】(例) ・ 作り方の多さ(手間) ・ 簡単→難しい ・ (+α) ・ かかる時間 ・ 姿がどれだけ変わるか ◇比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使っている。 (知・技) ◇書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 (思・判・表)
9 (本時)	○「中」で、どのような順序で例を挙げるか、組立てメモを個人で並び替える。 ○並び替えた例の順序についてグループで話し合う。 ○つなぎ言葉を考える。	・「中」の順序を考える際、根拠のある並び替えができるようにするために、並び替えの観点として「ならびかえのカギ」を示しておくことで、並び替えの理由を選んで、組立てメモシートに記入できるようにする。 ・並び替えの理由を、キーワードとともに話し、その並び替えでよいか、本を読みながらグループで話し合うことで、グループの児童同士で順序を確認したり、助け合ったりできるようにする。 ・例の順序が決まったら、順序に合ったつなぎ言葉を考える。その際、つなぎ言葉を掲示しておくことで、つまり児童でもそこから選べるようにする。 ◇書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 (思・判・表)

10	○組立てメモに沿って、筆者の説明の工夫を意識しながら、「中」の文章の下書きをする。	・全体で、「すがたをかえる大豆」で学んだ筆者の説明の工夫を想起させることで、組立てメモの状態から、どのように文章を組み立てていけばよいのか確認する。苦手な児童も書けるようにするために、黒板に「中」の書き方の例を掲示しながら進めていくようにする。 ◇書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 (思・判・表) ◇粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
11	○「初め」「終わり」の役割や筆者の説明の工夫を意識しながら、「初め」と「終わり」の文章の下書きをする。	・「すがたをかえる大豆」で学んだ、「初め」と「終わり」の役割を確認し、筆者の説明の工夫を意識しながら、「初め」「終わり」の下書きをする。 ◇書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 (思・判・表) ◇粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
12	○同じ材料を選んだグループで下書きを読み合う。 ○助言されたところを生かして、下書きを書き直す。	・推敲にあたって、意識するチェック項目を教師が示しておくことで、児童同士でも目的をもった推敲ができるようにする。 ◇書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 (思・判・表) ◇粘り強く書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
13	○「食べ物へんしんブック」の清書をし、完成させる。 ○冊子作りをして、食品のなぞなぞや食品の絵を書く。	・読んでもらうことを意識して、丁寧な字で書くように声をかける。 ◇粘り強く書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

14	○違う材料を選んだ児童同士で「食べ物へんしんブック」を読み合い、評価をし合う。 ○保護者に「食べ物へんしんブック」を紹介して、コメントをもらう。 ○第三次「書くこと」についての振り返りをする。	・違う材料を選んだ児童同士で「食べ物へんしんブック」を読み合うことで、違う食品についても触れられ、書き方が異なるそれぞれの作品によさがあることを気付かせる。観点を評価シート内に示しておくことで、何を評価するのかをわかりやすくする。 ・グループで「食べ物へんしんブック」の文章を各自で読んだ後に、なぞなぞの面を見せ合いながら、なぞなぞを出し合う。 ・家族間のコミュニケーションの機会を増やすために、「食べ物へんしんブック」を保護者に読んでもらい、感想をもらう。 ・第三次での振り返りをアイテムブックに書くことで、単元を通して自分に付いた力を実感できるようにする。 ◇文章を読み合い、友達の記事のよいところを見付けるとともに、自分の文章のよいところを見付けようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
----	---	---

6 本時の指導（9／14）

（1）目標

- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
(思考・判断・表現)

（2）展開

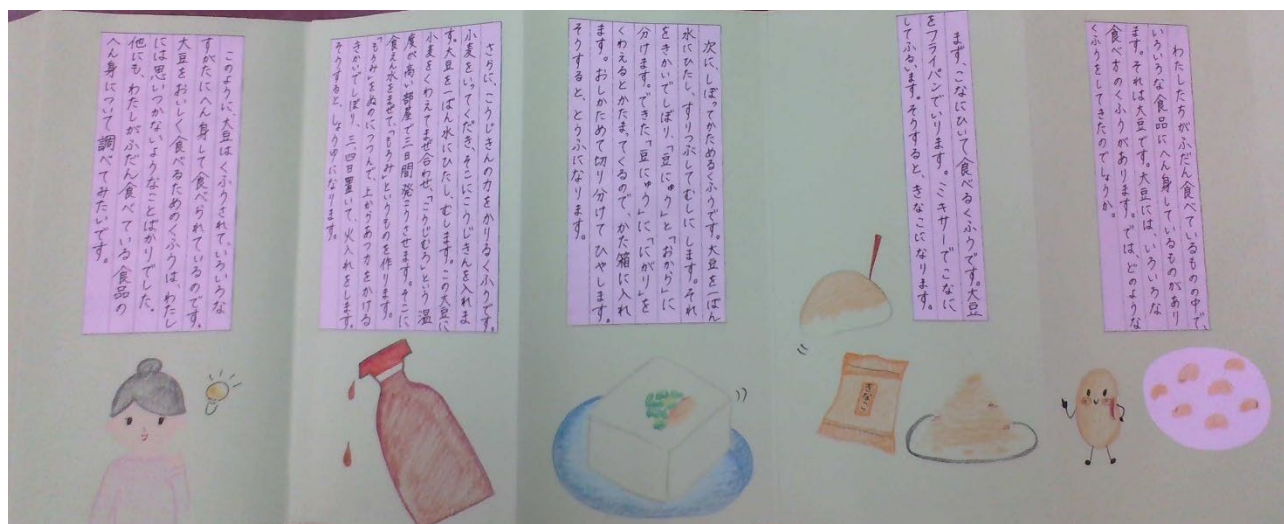
時配	主な学習内容と活動	指導や支援の手立て(◆評価)
3	1 前時を振り返り、本時の学習のめあてを確認する。	○これまでの学習で学んだ説明の工夫を、本時の学習で意識できるように声をかける。
	「中」のじゅんじょを考えて、組み立てメモをかん成させよう。	
7	2 「中」で、どのような順序で例を挙げるか、組み立てメモを個人で並び替える。	○順序の根拠を明確にするために、「ならびかえのカギ」で観点を意識させる。「ならびかえのカギ」を黒板に示しておくことで、組立てメモシートに、並び替えの理由を選んで記入できるようにする。 【ならびかえのカギ】(例) ・作り方の多さ(手間) ・かかる時間 ・簡単→難しい ・姿がどれだけ変わるか ・(+α)
5	3 話し合いをする上で、意識することを確認する。	○グループでの話し合いで、意識することを事前に示すことで、目的のある話し合いをできるように

	【発表、質問の例】（例） ・「～～」というキーワードがあるので、このようなじゅんじょにしました。 ・どうして〇〇と△△はこのじゅんなのですか？ ・どうして〇〇が先なのですか？ ・キーワードはなんですか？ 【かならずすること】 ・本を使って確認すること	する。順序に迷っている場合は、グループの友達に助けを求めてもよいことを伝える。 ○発表をする場合は、順序の理由を言うことや、キーワードを用いて順序を説明するように意識させる。 ○聞く場合は、発表を聞いて、順序についての質問をしたり、アドバイスをしたりできるように、質問の例を提示する。
15	4 並び替えた「中」の順序についてグループで話し合う。 【魚グループのやり取りの例】 C1：「私は、かつお節と干物の順序は、干物の次にかつお節がくと思ったよ。かかる時間で並び替えを考えたんだけど、かつお節は、1～2日くらい天日でかわかすってというキーワードがあったんだ。この順序、みんなは、どう思う？」 C2：「本を見て確認しよう。時間に注目すると、1～2日以外にも、作り方の中に、何度もくりかえすって書いてあるから、かつお節の方が完成までに時間が多くかかっていると思うよ。」 C1：「たしかにそうだね。教えてくれてありがとう。この順序に並び替えるね。」	○並び替えの理由を、キーワードとともに話し、その並び替えでよいか、本で確認してグループで話し合うことで、グループの児童同士で順序を確認したり、助け合ったりできるようにする。 ○組立てメモの順序については、正誤は問わず、その順序にした児童の理由や観点を尊重する。
5	5 話し合いを通して、どのような変化があったのか、全体で共有する。 ・私は〇〇と△△の順序が変わりました。理由は、グループの友達と本を確認していて、作り方に違いがあることに気付いたからです。	○グループでの話し合いを通して、どのような変化があったのか聞くことで、違うグループの話し合いの内容や、グループの友達にどのようなアドバイスをもらって順序が変わったのかを、全体で共有できるようにする。
5	6 並び替えの最終確認をし、つなぎ言葉を考える。	○自分の順序に合ったつなぎ言葉を考えられるように、意図的に違うつなぎ言葉を並べ、不一致に気付かせる。 ○悩んでいる児童に対して、黒板につなぎ言葉の例を掲示しておくことで、そこからつなぎ言葉

5	7 学習を振り返る。 今日の学習の振り返りをアイテムブックの中の振り返りシートに記入する。 ・グループ友達とどの順序がいいか、理由を発表し合って考えることができた。 ・つなぎ言葉を考えることができた。	を選んで書けるようにする。 ◆書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係性に注意したりして、文章の構成を考えている。 (思・判・表) ○次回は、今回の組立てメモをもとに、「中」の下書きに入ることを伝える。 ○今日の学習を生かして、読み手に伝わりやすい「食べ物へんしんブック」を完成させたいという意識を高めさせる。
---	---	---

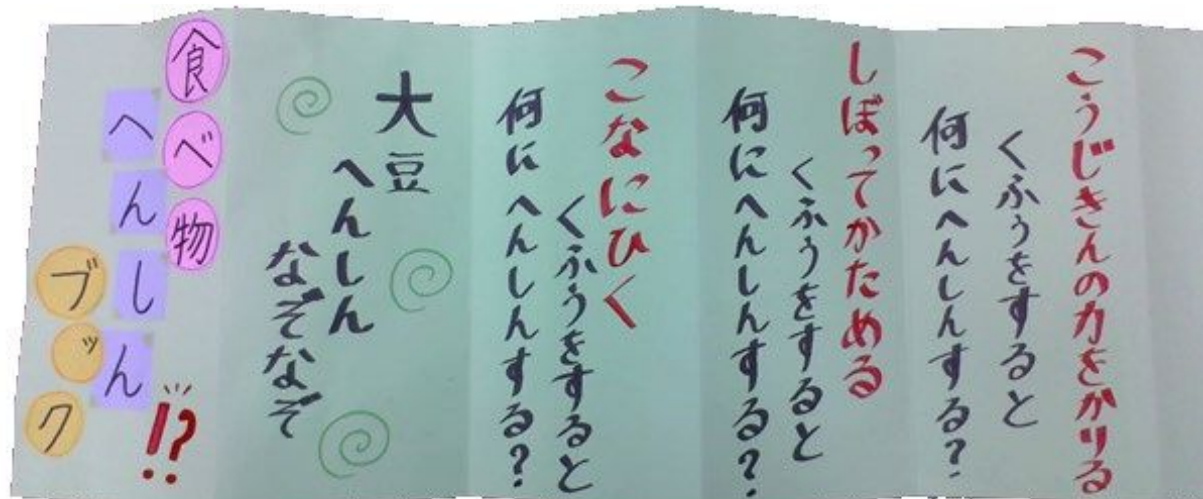
8 資料

【食べ物へんしんブック 教師例 本文】



【食べ物へんしんブック 教師例 なぞなぞ】

アイ



【使用したワークシート：1時間目】

★大ゴール★

中ゴール②

中ゴール①

--	--	--	--	--	--

すがたをかえる大豆①

年

組 名前

すがたをかえる大豆①

年

組 名前

【使用したワークシート：2時間目】

			段落 書かれていること	すかたをかえる大豆② 年 組 名前

【使用したワークシート：3 時間目】

すがたをかえる大豆③

年 組 名前

このときは・・・

はじめ				
中				
終わり				

「すがたをかえる大豆」では、どこに問いがあるのかな？

なるほど！それなら、やっぱり問いの文は・・・
の中にあるべきだよ。

そうなることえは・・・
の中にあるはずだね。

ことえはあるのかな・・・？ みんなは、
問いのことえになる文ってどこの文だと思う？

そうか！
じゃあ、どこに、どんな問いを入れたらいいと思う？

ことえになる文←

ではこの、ことえの文は、だん落の
どこに書いてありますか？・・・

と言えます。

なんでここに書いてあると思いますか？

--	--	--	--

【使用したワークシート：4 時間目】

ならびかえのカギ

7	6	5	4	3	段落
えだ豆 もやし	なっとう みそ しょうゆ	とうふ	きなこ	豆まきの豆 に豆	具体的な
★ 時期や育て方をくふうした食べ方 もあります。	★ 小さな生物の力をかりて、ちがう食 品にするくふうもあります。	★ ふくまれる大切なえいようだけを 取り出して、ちがう食品にするくふ うもあります。	★ 食べるくふうがあります。	★ 大豆をその形のままだったり、にた りして、やわらかく、おいしくする くふうです。	

「はじめ」のかくれた問い

すがたをかえる大豆④

年 組 名 前

【使用したワークシート：5時間目】

①

★

文章には、「また」「さらに」などの
使われている。↓他には？

中で、れいをあげる（
たとえば、「
↓（に）気をつけてならべている。
」

（
中では、中心の文・大事な文を、かならずだん落の
（）に書いています。

はじめに、かくれた（
がある。「くふうのくふう」
（）があり、中には（
）

（
文章は、はじめ、中、終わりに分かれていて、中では、
な（）が書かれている。

せつ明のしかたのくふう だい かじよう

すがたをかえる大豆⑤

年 組 名 前

【使用したワークシート：6時間目】

【組み立てメモの例】

←ならばかえの理由

組み立てメモシート

年 組 名前

め

つなぎ言葉

おいしく食べる
ためのくふう
こうじまん
の力を
かりる

作り方

食品

しょうゆ

- ① 小麦をいってくだく
- ② 小麦にこうじまんを入れる
- ③ 大豆をむす 水はをけおく
- ④ 大豆に小麦をくねえり
- ⑤ は、こうさせる 三日間
- ⑥ もうみを作る
- ⑦ もうみをしぼる
- ⑧ 火入れ

つなぎ言葉

おいしく食べる
ためのくふう
しぼって
かためる

作り方

食品

とうふ

- ① 大豆を水にひたす ひとばん
- ② すりつぶしてむしにする
- ③ 豆にゆきをしぼり取る
- ④ にがりを入れる
- ⑤ かた箱に入れる
- ⑥ 重しをしておしにかためる
- ⑦ 切り分けてひやす

つなぎ言葉

おいしく食べる
ためのくふう
こなにする

作り方

食品

きなこ

- ① 大豆をいり
- ② こなにする
- ③ ふるり

1 番号

【振り返りシート 1】

⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	日
今日の活動	単元全体の目ひようを知り、 「読むこと」での学習の計画 と、めあてを立てる。	文章を三つに分けて、「中」で 書かれているれいを整理す る。	どこにどのような「問い」の文 書を入れるか考える。「中」の 書かれ方を考える。	「中」のれいがどのようなじ ゆんであげられているのか考 える。	筆者のせつ明のくふうをまと める。「読むこと」のふり返り をする。	「書くこと」での学習の計画 と、めあてをたてる。本を読ん で書きたい材料をえらぶ。	本で調べた内ようを、じよう ほうメモに書く。 組み立ててメモに整理する。	組み立ててメモに作り方を書く。 ならびかえのカギに合ったキー ワードを本から見つける。	グループで、「中」のじゆんじよや 内ようについて話し合う。つなぎ 言葉を考える。	筆者のせつ明のくふうをいし きして、「中」の下書きをする。	「はじめ」と「終わり」の下書 きをする。	グループで下書きを読み合 い、おたがいにアドバイスを する。下書きを直す。	せい書をする。「食べ物へんし んブック」のさっしを作る。	ちがう材料をえらんだ友だち同 士で読み合い、感想を伝える。 「書くこと」のふり返りをする。
														ふり返り（感想、わかったこと）

【振り返りシート2】

